

北区転出入者アンケート調査報告書
(世代別主要項目詳細比較分析版)

平成30年8月

東京都北区

I 調査の概要

調査概要

- 調査対象 平成27年度・28年度の年度末時点で北区から提出・転入した20歳以上49歳以下の方から、各1,000人を無作為抽出。
転出者2,000人、転入者2,000人 計4,000人。
- 調査方法 郵送による調査
- 調査期間 平成29年12月4日～15日
- 回収率 転出者 回収数：413名、回収率：20.7%
転入者 回収数：510名、回収率：25.5%
- 回答者属性

転出者		人数	構成比
男性	20代	37	9.0%
	30代	82	19.9%
	40代以上	52	12.6%
	計	171	41.4%
女性	20代	65	15.7%
	30代	125	30.3%
	40代以上	52	12.6%
	計	242	58.6%
合 計		413	100.0%

転入者		人数	構成比
男性	20代	73	14.3%
	30代	88	17.3%
	40代以上	61	12.0%
	計	222	43.5%
女性	20代	91	17.8%
	30代	124	24.3%
	40代以上	73	14.3%
	計	288	56.5%
合 計		510	100.0%

II 調査結果

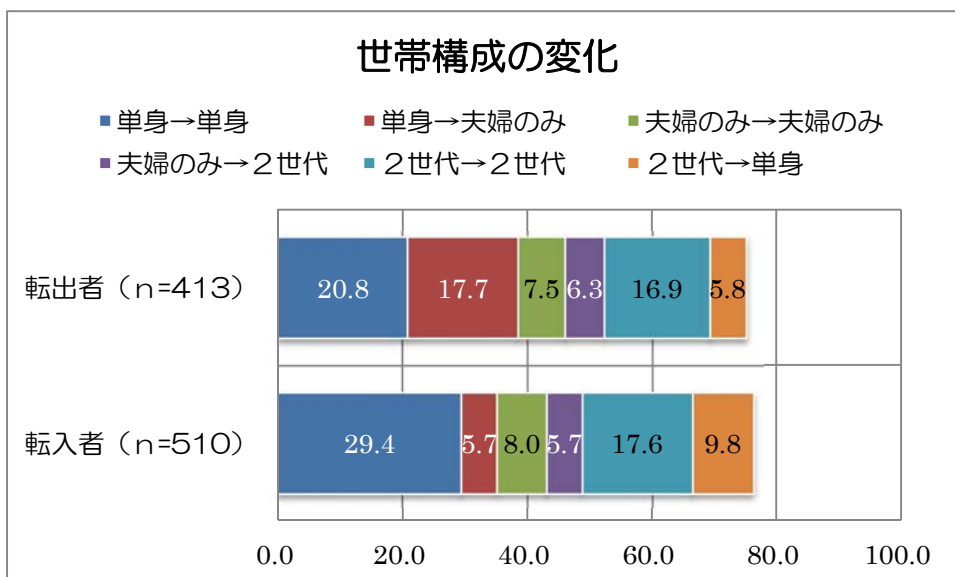
1. 全体的な傾向

★世帯構成の変化（報告書P11）

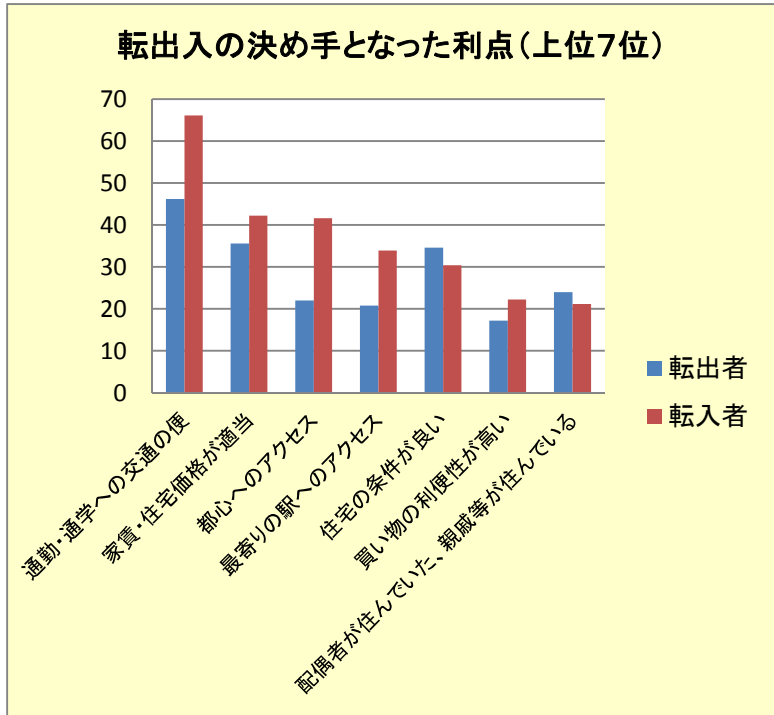
転出入前後の世帯構成の変化をみると以下のとおりである。

「単身→夫婦のみ」は転出者が17.7%、転入者が5.7%と転出者が12.2pt高い。このことから、結婚が理由と考えられる転居は、転出の方が多いことが推察される。

「単身→単身」は、転出者が20.8%、転入者が29.4%と転入者の方が8.6pt高い。



★転出入の決め手となった利点（報告書 P19）



転入者では、①通勤・通学への交通の便が良いが66.1%(転出者より19.9pt高い)②家賃・住宅価格が適当が42.2%(転出者より5.9pt高い)、③都心へのアクセスが良いが41.6%(転出者より19.6pt高い)で、上位となっている。

北区に転入する決め手となったのは、通勤・通学地や都心へのアクセスが良いこと、家賃や住宅の購入価格を含めた広さなどの住宅の条件が、転入者のニーズにあったものであったことがわかる。

やはり「交通アクセスの良さ」が転入の大きな決め手となっている。

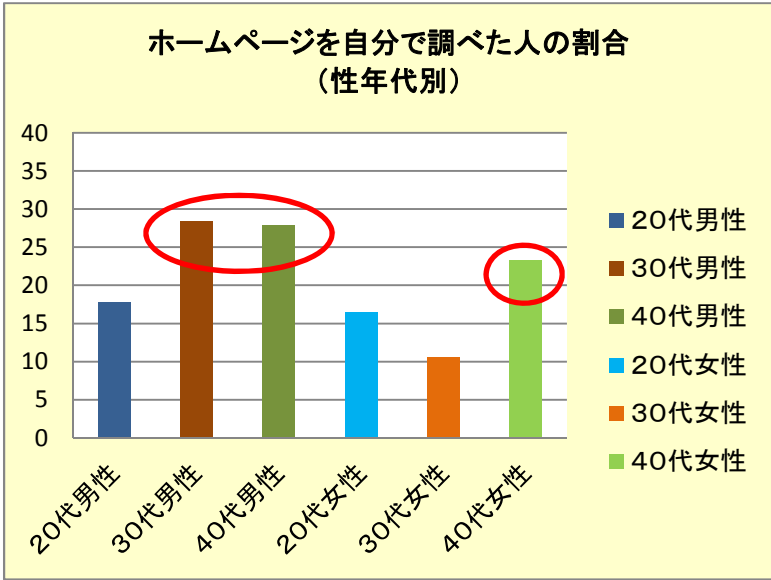
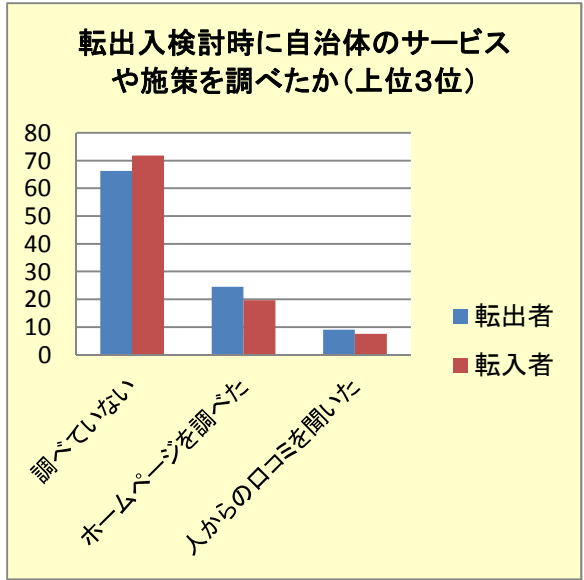
また、「配偶者が以前住んでいた、親戚等が住んでいる」といった理由も上位にある。いわゆる“土地勘”があることも転出入の理由の一つの要因となっている。

★転出入先の検討時に自治体の行政サービスや施策を調べたか（報告書 P23-25）

転入者の7割は行政サービスや施策を調べていないが、ホームページを自分で調べた人も約2割いる。特に30代と40代の男性は3割近く、40代の女性も2割を超えている。

このことから、30代、40代という子育てファミリー層（親と子の二世帯）に対しては、ホームページでの情報発信が有効であることが分かる。

また、今回の調査では、子育てファミリー層は、情報収集手段として「口コミ」も一定程度あることが分かった。例えば、保育園や幼稚園の情報などを人づてに聞いて、転居先を検討する材料としているのではないかと推測される。



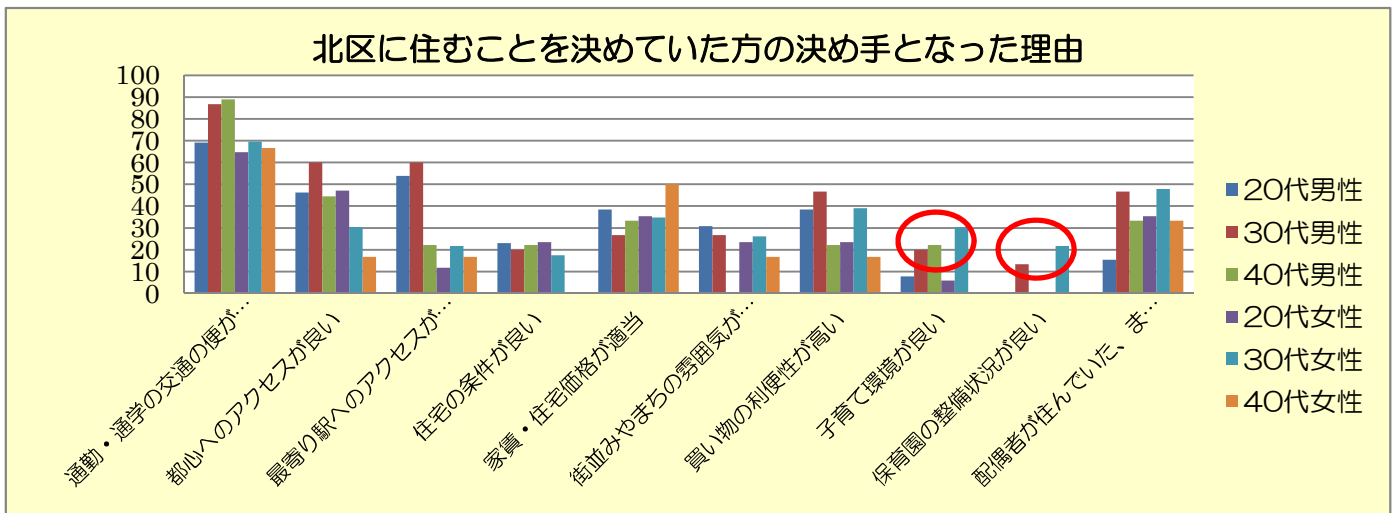
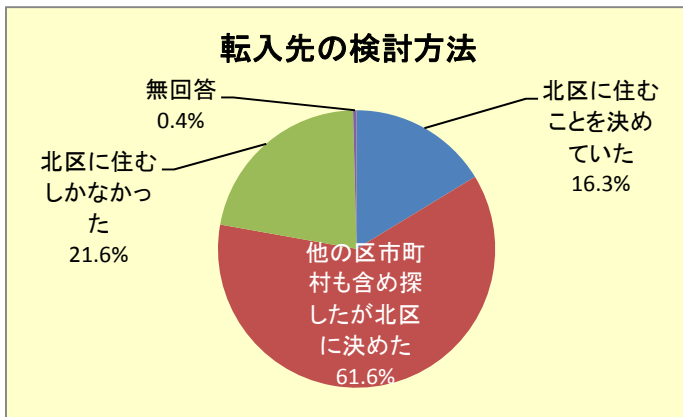
★転出入の検討方法（報告書 P27、19）

転入者では、「他の市区町村を含めて探したが北区に決めた」61.6%（全ての世代で概ね6割）、次いで、「北区に住むことを決めていた」16.3%となっている。

「北区に住むことを決めていた」人がなぜ北区に決めていたのかを詳細に分析すると、交通アクセスの良さを理由に挙げる人が圧倒的に多い。

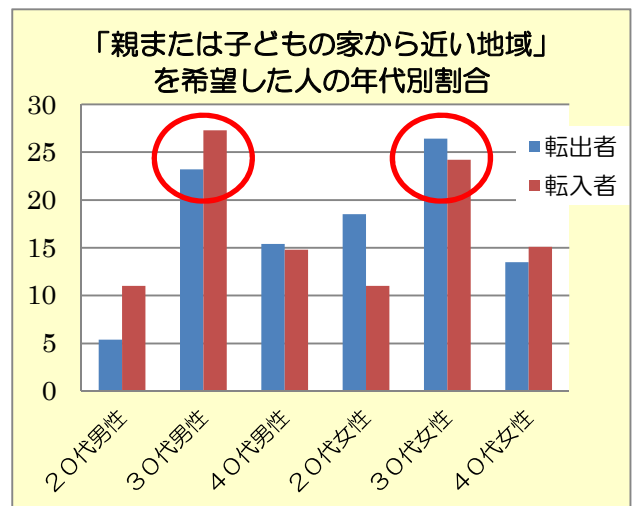
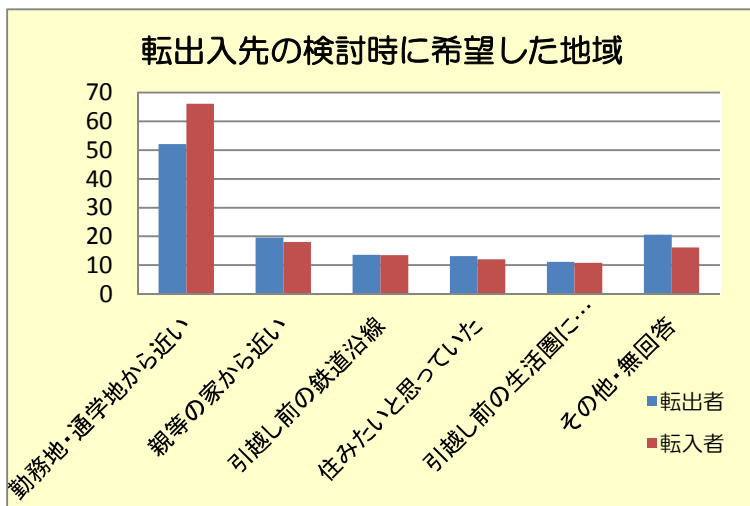
一方で、30代の男女及び40代男性の2割以上が「子育て環境が良い」、30代の男女で「保育園の整備状況が良い」と回答としている。

このことから、特に30代、40代の子育てファミリー層は、居住地を選択する際に、子育て支援策が重要な判断材料の一つになっていることが分かった。



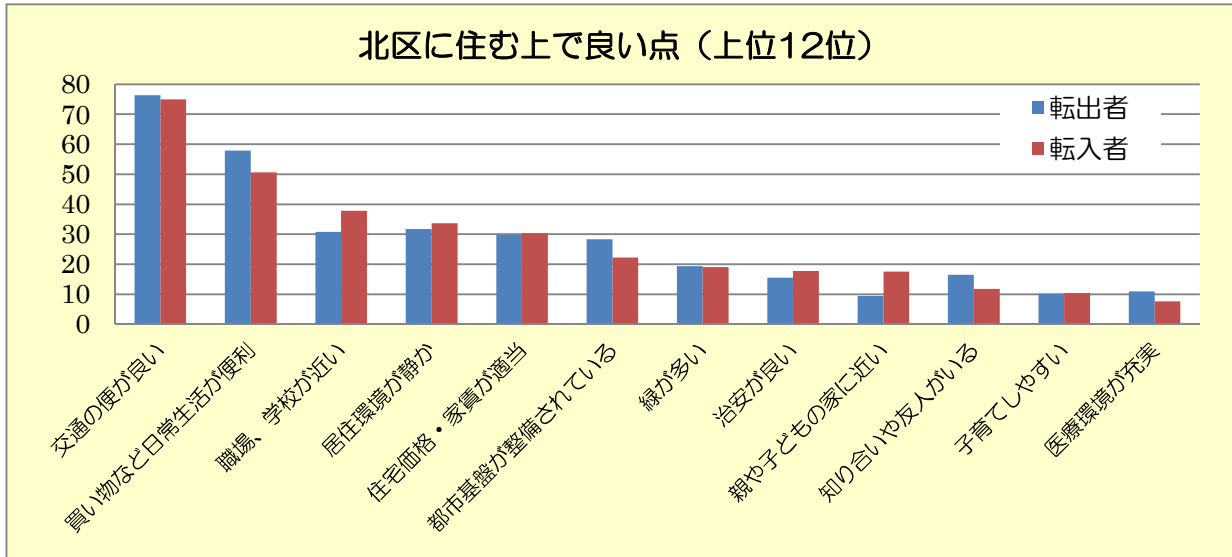
★転出入先の検討時に希望した地域（報告書 P31）

転出者及び転入者ともに、第1位は「勤務地・通学地から近い地域」、第2位は「親または子どもの家から近い地域」となっている。「親または子どもの家から近い地域」を希望した人を年代別に比較すると、転出入とも30代の男女で25%程度を示しており、子育てファミリー層にあたる30代男女は、子育ての強力なサポーターである親世代が居住する地域の近居を希望する方が多いと考えられる。



★北区に住む上で良い点（報告書P35）

転出者・転入者ともに、「交通の便が良い」は約75%、「買い物など日常生活が便利」は転出者で約6割、転入者で約5割、「職場・学校が近い」「居住環境が静か」「住宅価格・家賃が適当」がそれぞれ約3割程度となっている。これらのことから、転出者、転入者ともに、北区は生活環境が良いと感じている人が多いことが推察できる。

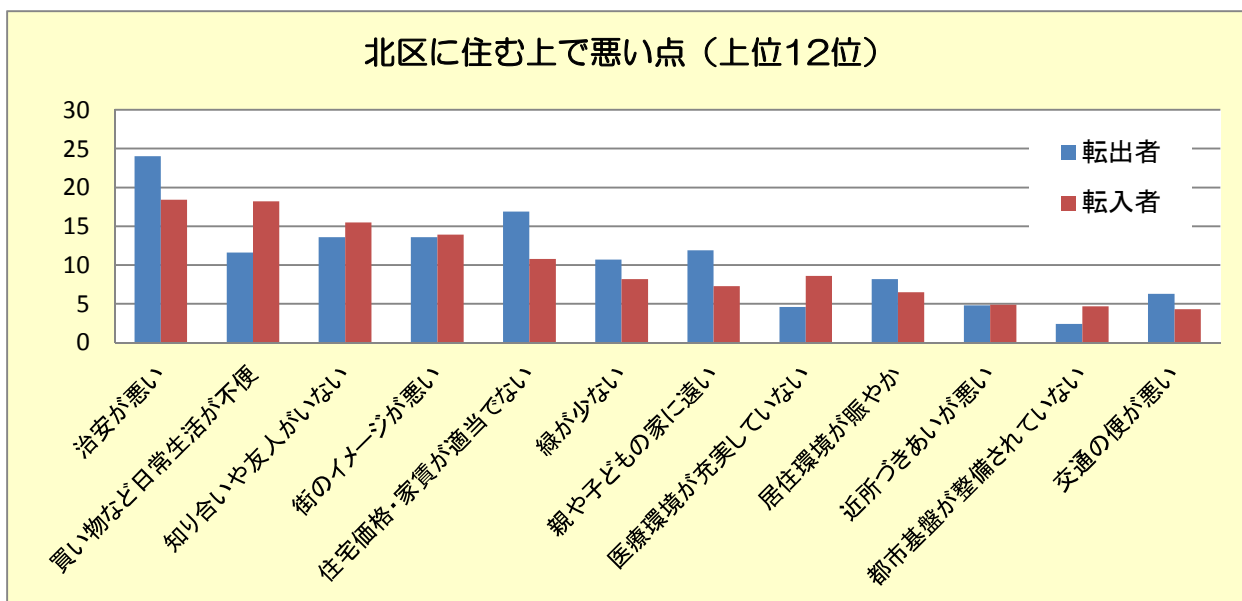


性年代別に詳細にみると、転入者の20代及び30代の女性の約25%は「治安が良い」と回答し、30代女性の約20%は「子育てしやすい」と回答している。また、30代の男女ともに約25%が「親や子どもの家に近い」と回答している。

★北区に住む上で悪い点（報告書P39）

転出者では、「治安が悪い」24.0%、「住宅価格・家賃が適当でない」16.9%となっている。「治安が悪い」と感じているのは、特に20代男性（29.7%）、30代女性（27.2%）が高い。

転入者では、「治安が悪い」18.4%、「買い物など日常生活が不便」18.2%、「知り合いや友人がいない」15.5%となっている。「治安が悪い」と感じているのは、特に40代男性（23.0%）、30代男性（22.7%）が高い。「買い物など日常生活が不便」と感じているのは、40代女性が26.0%と高い。



◎北区に住む上で良い点及び悪い点の比較考察（転入者）

北区に住む上で良い点と悪い点を比較すると、総じて北区の生活環境は良いと感じている人が多いと推察される。しかしながら、「治安が悪い」「街のイメージが悪い」という回答や、「医療環境が充実していない」「教育環境や公教育の内容が悪い」という回答が、良いという回答率を上回っている。

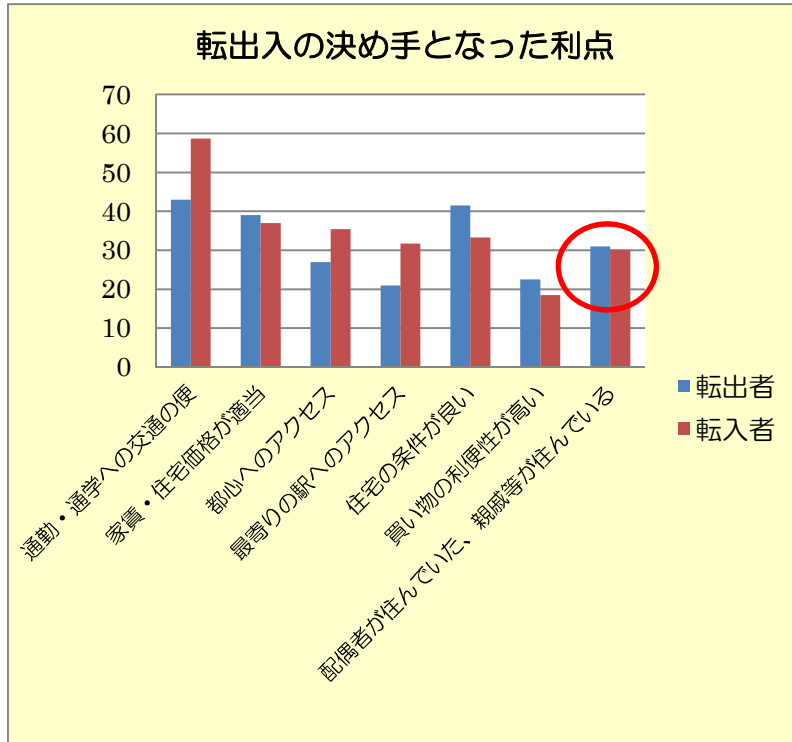
こうした悪い印象を与えている点の改善を進める施策や事業の展開が求められる。

項目	交通の便(良い・悪い)	買い物など日常生活(便利・不便)	職場 学校までの距離(近い・遠い)	居住環境(静か・賑やか)	住居価格・家賃(適当・不適当)	都市基盤整備(キレイ・キレイでない)	緑(多い・少ない)	治安(良い・悪い)	親や子どもの家(近い・遠い)	知り合いや友人(いる・いない)	子育て(楽・大変)	医療環境(充実・充実していない)	街のイメージ(良い・悪い)	近所づきまい(良い・悪い)	福祉(充実・充実していない)	公立学校の教育内容(良い・悪い)	教育環境(良い・悪い)
良い点	74.9	50.6	37.8	33.7	30.4	22.2	19.0	17.8	17.5	11.8	10.4	7.6	7.3	4.9	4.5	1.6	1.4
悪い点	4.3	18.2	2.7	6.5	10.8	4.7	8.2	18.4	7.3	15.5	4.3	8.6	13.9	4.9	3.3	2.2	2.9

2 子育てファミリー層の傾向

この調査では、世帯構成の変化が、「単身→夫婦のみ」「夫婦のみ→夫婦のみ」「夫婦のみ→2世代（親と子）」「2世代（親と子）→2世代（親と子）」である対象者を「子育てファミリー層」と定義して分析を行っている。

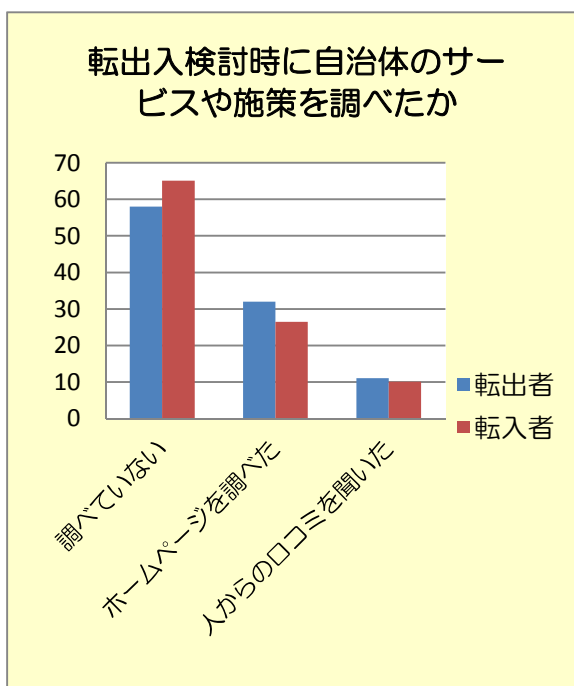
★転出入の決め手となった利点（報告書 P47）



子育てファミリー層の転出入の決め手となった利点については、全体の調査結果とほぼ同様の傾向を示し、通勤・通学地や都心へのアクセスが良いこと、家賃や住宅の購入価格を含めた広さなどの住宅の条件が決め手となっている。

しかしながら、「配偶者が以前住んでいた、親戚等が住んでいる」といった理由が転出入とも約 3 割となっている。全体では約 2 割であったことから、子育てファミリー層は“土地勘”があることが転居地を決める大きな要素となっていることが分かる。

★転出入先の検討時に自治体の行政サービスや施策を調べたか（報告書 P48）

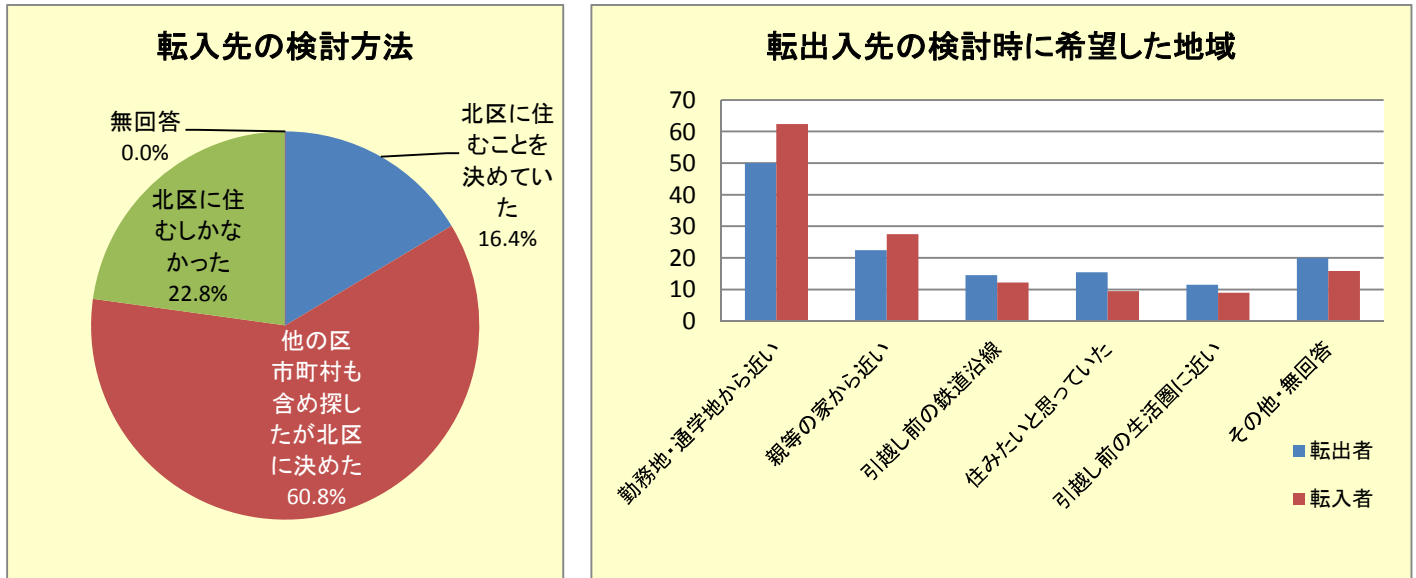


子育てファミリー層は、転出入の検討に当たり自治体の情報を「調べていない」人は、転出者 58.0%、転入者 65.1%と全体より7～8ポイント程度低くなっており、「ホームページを調べた」人が転出者 32.0%、転入者 26.5%と7ポイント程度、高くなっている。

また、「口コミ」という回答も1割を超えている。

このことから、子育てファミリー層に対しては、ホームページでの情報発信が有効であることが分かった。また、保育園や幼稚園の情報なども含む行政情報を入つてに聞いて、転居先等を決める材料の一つとして活用していることが推測できる。

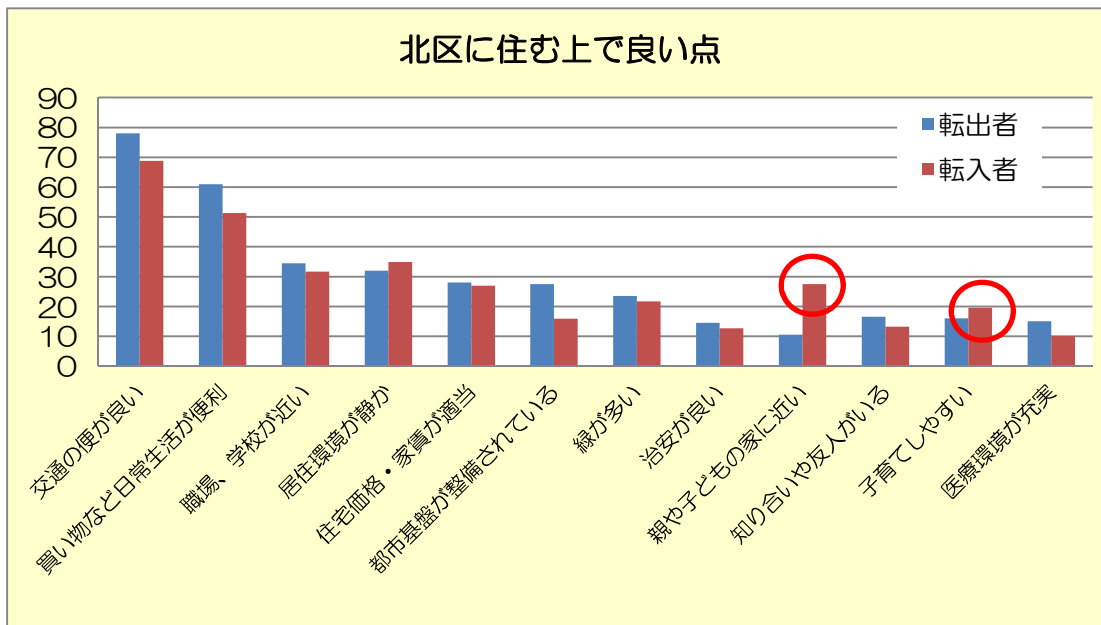
★転出入の検討方法と希望した地域（報告書 P49、51）



転入先の検討方法は、全体の傾向と変わらず、「他の市区町村を含めて探したが北区に決めた」（60.8%）が第1位、次いで、「北区に住むしかなかった」（22.8%）となっている。

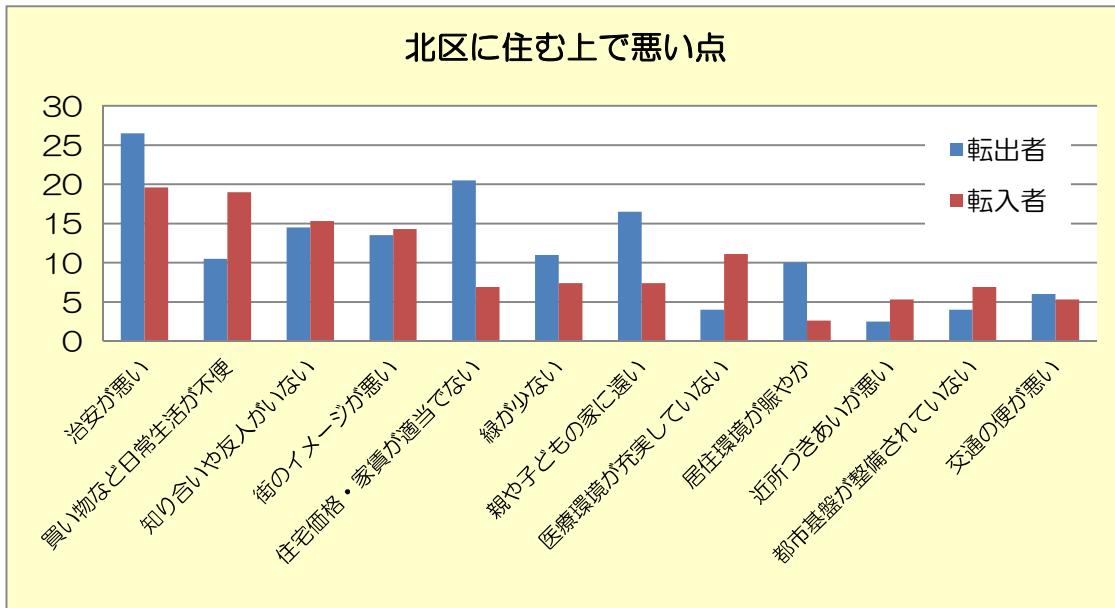
転出入先の検討時に希望した地域は、転入者では「親等の家から近い」が27.5%を超えており、全体からみると10ポイント程度高くなっている。子育てファミリー世代は、子育ての強力なサポーターとなりうる親等が居住する地域の近居を希望する人も多いと考えられる。

★北区に住む上で良い点（報告書 P53）



転出入者とも全体の傾向と変わらず、「交通の便が良い」「買い物など日常生活が便利」が上位となっている。ただし、転入者の「親や子どもの家に近い」という回答は全体の回答率よりも10ポイント、「子育てしやすい」という回答は全体の回答率よりも9.2ポイント上回っている。このことから、子育てファミリー世代にとって、北区は交通環境や生活環境に恵まれ、子育てしやすい街であると考えていることが推察される。

★北区に住む上で悪い点（報告書 P54）

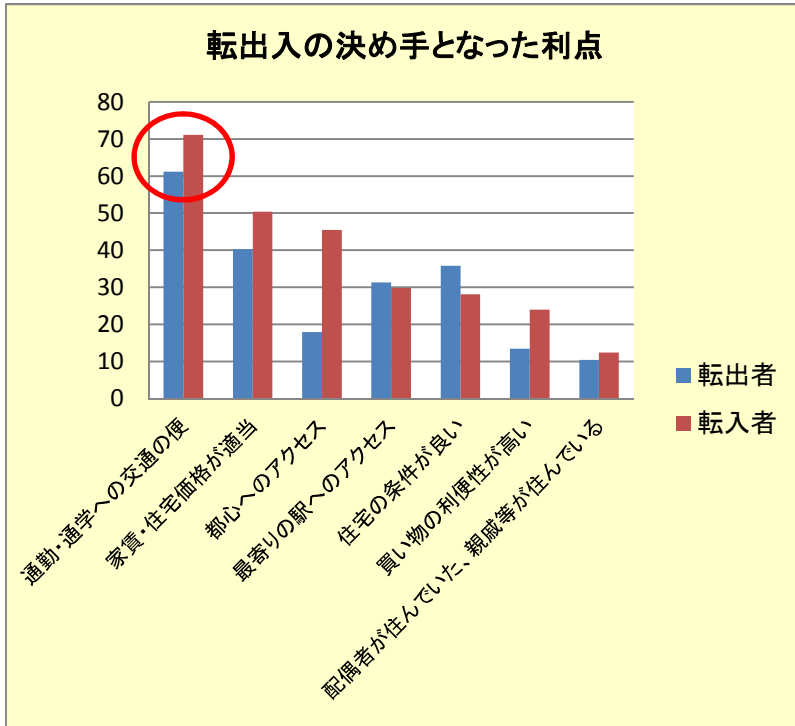


転出入者とも全体の傾向と変わらず、「治安が悪い」「買い物など日常生活が不便」「知り合いや友人がいない」が上位となっている。また、転出者では「住宅価格・家賃が適当でない」が20%を超えており、「親や子どもの家に遠い」も15%を超えている。これらの理由も転出のきっかけになっていると推察される。

3 若年層の傾向

この調査では、年代が 20 代・30 代で世帯構成の変化が、「単身→単身」を「若年層」と定義して分析を行っている。

★転出入の決め手となった利点（報告書 P57）

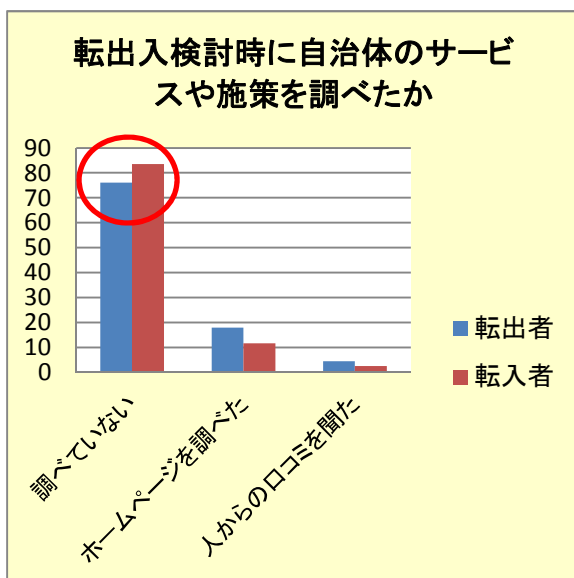


若年層の転出入の決め手となった利点については、全体の調査結果とほぼ同様の傾向を示し、通勤・通学地や都心へのアクセスが良いこと、家賃や住宅の購入価格を含めた広さなどの住宅の条件が決め手となっている。

しかしながら、転出者の「通勤・通学への交通の便」が 61.2% となっており、全体の 46.2% と比較すると 15 ポイント高くなっている。転入者も同様に全体より 5 ポイント高くなっている。

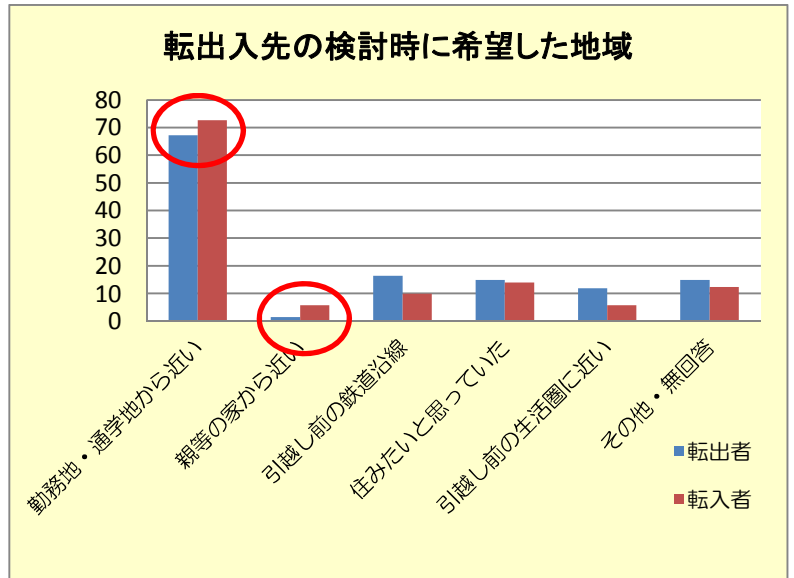
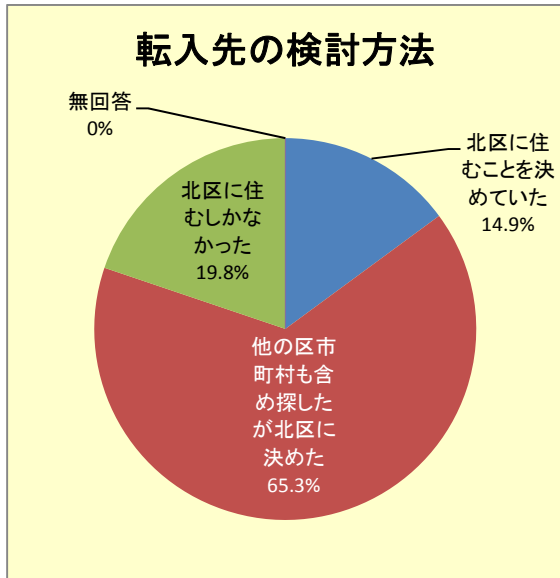
このことから、若年層は、より通勤・通学に便利な場所を求めて転居する傾向があると推察される。

★転出入先の検討時に自治体の行政サービスや施策を調べたか（報告書 P58）



若年層は、転出入の検討に当たり自治体の情報を「調べていない」人は、転出者 76.1%、転入者 83.5% と 8 割程度の人が行政情報を全く調べずに転居していることが分かる。若年層は、居住する自治体のサービスへの関心度が低く、生活の場という意識も低いと推察される。

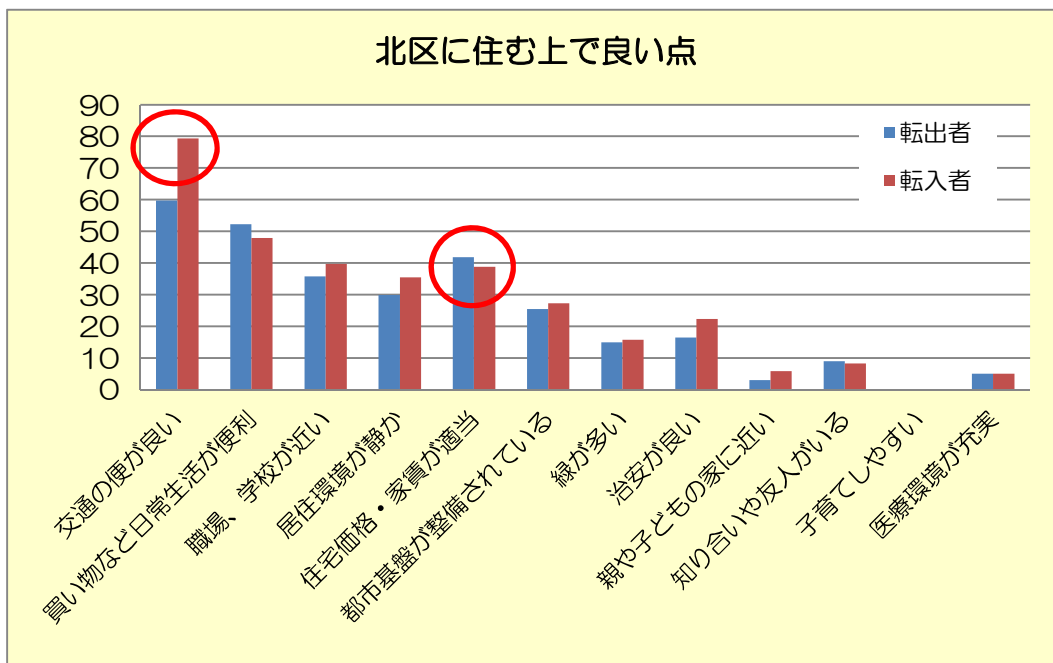
★転出入の検討方法と希望した地域 (P59、60)



転入先の検討方法は、全体の傾向と変わらず、「他の市区町村を含めて探したが北区に決めた」（65.3%）が第1位、次いで、「北区に住むしかなかった」（19.8%）となっている。

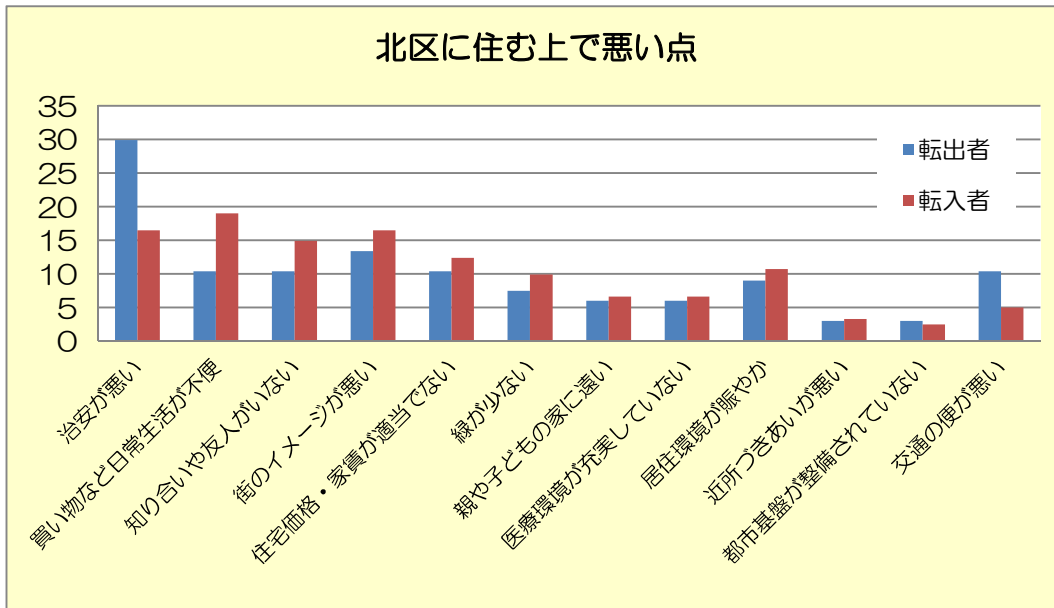
転出入先の検討時に希望した地域は、転出者では「通勤・通学地が近い」が67.2%で全体に比べ15.1ポイント高い。また「親等の家から近い」が1.5%で全体に比べ18.1ポイント低い。この傾向は転入者も同様で、「通勤・通学地が近い」が72.7%で全体に比べ6.6ポイント高い。また「親等の家から近い」が5.8%で全体に比べ12.2ポイント低い。

★北区に住む上で良い点 (P62)



転出入者とも全体の傾向とほぼ変わらないが、「交通の便が良い」という回答は、転出者では59.7%と6割を切り、全体と比べると16.6ポイント低くなっている。一方、転入者は79.3%と8割に迫り、全体と比べると4.4ポイント高くなっている。また、「住宅価格・家賃が適当」との回答は、転出入者とも全体と比べると10ポイント程度高くなっている。

★北区に住む上で悪い点 (P63)



転出入者とも全体の傾向とほぼ変わらないが、「街のイメージが悪い」が第3位（転出者13.4%、転入者16.5%）となっている。また、転出者では「住宅価格・家賃が適当でない」が10.4%と全体と比べ6.5ポイント、「親や子どもの家に遠い」も6.0%と全体と比べ5.9ポイントになっている。

まとめ 本調査は、北区の最重要課題の一つである「子育てファミリー層・若年層の定住化」を推進するためのこれまでの取り組みが、転出入者の動向や意向にどう影響を与えているかを検証し、今後の施策立案に活用することを目的として実施した。

特に、子育てファミリー層の中心である30代男女の結果からは、交通アクセスの良さだけではなく、北区の子育て環境や保育園の整備状況に魅力を感じていること、そうした行政サービス等の情報を得る手段としては、30代、40代の男性を中心にホームページなどを活用していることが分かった。

また、「親や子どもの家に近い」という理由で北区を選択した方も一定程度いる。生まれ育ったまち、子育ての強力なサポーターともなりうる親等が住んでいるまちの近くで子育てを望んでいる人もいと考える。

子育てファミリー層・若年層の定住化に向けて、子育て施策などのさらなる充実とともに、効果的な情報発信が引き続き求められている。

北区転出入者アンケート調査報告書
(世代別主要項目詳細比較分析版)
平成30年8月発行

発行 北区政策経営部企画課
東京都北区王子本町1-15-22
電話 03-3908-1104 (ダイヤルイン)

刊行物登録番号
30 -1 -059